Novenber | 2011

ーLink“新風”

Vol.45
(通算 第138号)

今年も残すところあと2ヶ月となりました。
そろそろお歳暮･年賀状の準備や、忘年会の計画を考え始める頃でしょうか？
間際になって慌てないように、今のうちからゆっくりと準備を進めていきましょうね。

『絶景ポイント』

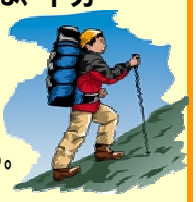
『今月の表紙』

千葉県の富津から少し南下した位置にある鋸山（のこぎりやま）です。
ここは山全体が「日本寺」というお寺になっていて、舘山湾が眼下に広がります。
岩肌を掘って作った巨大仏像など見どころがいっぱい。その中で一番のお薦めが
「地獄のぞき」です。この突き出た岩の下は約100mの断崖絶壁！！

撮影日時：2005年6月25日　　撮影者：小針英人

今年最終号は、またまた損・得

●我々は、数秒先をも含めなんと未来を我がものとしているのだろうと思う。最たるものが安全に対する意識である。しばしばお目にかかる、自転車の狭い交差点での安全確認無視などが良い例である。未成年者に多く見られると思いきや大のおとなが･･･、何をか況やである。どうしてこうもマナーやモラールに欠けてしまっているのかほとほと理解に苦しむ。
思うに、損･得ということか。他人がやっているから自分もやる、自分もやらないと損だ。事実こういう心理を人間は持ち合わせているのだと思う。
ときに例に出すが、会社で何か委員を頼まれたとき、自分の得にならないから、即ちお金にならないから、その委員を受けたくないという者がいたとする。その者は、委員を受けないから得をしたのか。否、大いに損をしたというべきである。詰まるところ、他人から頼りにされない人というレッテルを貼られ、委員を受けた事による自己の向上につながる貴重な経験をも失ってしまうという大いなる損が残るだけである。そこに気が付かない。
自転車の一旦停止無視により人を傷つけ、場合によっては死に至らしめる事態になったとき、何故一旦停止をしなかったのだろうかと自責の念に苛まれるだろう。恥じ入る後悔である。
我々は、会社においてヒヤリハットやリスク管理などで事故を未然に防止する活動を行っているが、それでも事故は起こりうる。起こったときに何故ああしなかったのか、こうしなかったのかと嘆くことになる。安全はきわめて簡単に手に入るものと高をくくっているのである。できれば何にもしたくない、しない方が楽であり、何かすることは手間がかかり面倒くさいものである。この心理を我々は、十分認識して事に当たる必要がある。
一寸先は闇である。経営もしかり。心して戦っていきたい。



●山に登ると下界が小さく見える。嗚呼、私はなんとせせこましい心根であることか、もっと大らかに物事を捉えていかなければ･･･という言葉をよく聞く。事実私もそういう経験がある。物事は大局的に先ず見る事が大事であると理解している。
例えば、この物件の設計を始めるに当たり、お客様の会社概要を知り、どういうものを生産するのか、納入する全工程はどうなっているのか、当社の技術はどのように貢献できるのか、起こりうるリスクは何か、コストは、この仕事を通して自分は何を得ようとするのか、等々をシッカリ把握しておかなければならない。それ無しに設計から入ってモノが完成しても、十分な達成感は得られないだろう。
モノづくりにはストーリーづくりが絶対必要である。設計だけでなくどの部署もそうである。部署の目標をシッカリ頭に入れて仕事を進めることも肝要である。それを無視して事に当たっても、見当外れなことばかりやっているということになりかねない。

●組織が肥大化すると、いわゆる分業が進み会社の全体が見えなくなる事があるので、十分注意されたい。各部の仕事はお互いの部署に入り組んでいるのである。つまり、前工程と後工程が自分の部署と離れているのではなく、深く交錯しているのであり、会社全体が連なっているのである。
一気通貫でいい仕事をするために、このことをよくよく理解しておかねばならない。他部署のことを常に気にかけて、何が今起こっているのかを知っておかねばならない。
無関心でいる無かれ！無関心でいると他人から無視される存在になってしまう。それをも自分で気が付かない人は不幸である。

●工場トイレの洗面台が工事によってきれいになった。なったが直ぐ黒い汚れが目立つようになるのは何故？と問うと曰く、油分がどうしても手についていて汚れてしまうと。実に簡単明瞭な答えだが、ここに経営の落とし穴があることを痛感する。洗剤と石けんを用意したので大いに利用願いたい。
愚妻の亡き父上が経営していた会社のトイレに張り紙をしていたことを思い出す･･･
“汚れたら直ぐ洗えばきれいに保てる”。

●人は何のために生きているのか、それは他人（ひと）のために生きているのだ。これは真理である。自分のためにだけひたすら生きるのはとても見苦しい。どんなに苦しくても歯を食いしばって頑張れるのは、他人のためだからである。小さなことでも、そう思えば生きる勇気がわいてくるし、自分をもっと成長させてくれる源となろう。
やっぱり損･得ではなく、“尊･徳”だ。

今期はも残すところあと10ヶ月であり、今年は残すところわずか2ヶ月である。健康に留意し、悔いのない日々を送りたいものである。感謝！

追伸：来年は、原稿を早目に出すことを誓います。今年は編集局に随分ご迷惑をお掛けしました。深謝！

社長　赤堀肇紀